

3. SGH 研究開発実施概要（成果と課題）

3.1 平成 27 年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	とうきょうがくけいせいしゅがくふぞくこくさいちゅうとうきょういっくがっこう						②所在都道府県	東京都
27～31	①学校名	東京学芸大学附属国際中等教育学校							
③対象学科名	④対象とする生徒数							⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	中等教育学校後期課程（高等学校）を中心とし、一部については前期課程を含む全校生徒を対象とする	
普通科	108	118	125	125	135	127	738		
※生徒数は 2019 年度									
⑥研究開発構想名	多文化共生社会の実現を支える組織力・対話力・実行力の育成								
⑦研究開発の概要	<p>「リスク」「葛藤と軋轢」「教育」を大テーマとした課題研究を通して、多文化共生社会の実現を牽引し、現代社会および未来につながる課題解決に主体的に取り組むために必要なコンピテンシー、特に「組織力」「対話力」「実行力」を養い、それを活かしたアクションを起こせる生徒を育成する。</p> <p>①課題研究および各教科の授業、国際教養群の授業における探究的学習を通して、コンピテンシーの育成と伸長を促すための体系を整備し実践する。学習領域「国際教養」において、生徒の課題研究を現実的な課題に合う高次のレベルに引き上げるための構造的な改変を行う（SGHAct による学校外活動の単位認定・総合的学習の時間の体系化・課題研究を実践につなげる支援企業参加のコンペティションの実施等）。②課題研究の質の向上および課題研究と評価方法策定のための外部連携を強化し、生徒課題研究を中核としてネットワーク化する。③生徒のコンピテンシーを評価するための指標・規準の確立を含む評価方法について、連携大学・企業・国際的組織と共同した研究・開発体制をとる。</p>								
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>現実の社会問題に即した焦点からアプローチする課題研究への取組によって、多様化複雑化を極める現代社会の課題に対し、その核心をつかんで組織的に対応できる能力を育成する。また、その研究のプロセス・成果を内部・外部の両者によって評価するシステムを構築し、グローバル・コンピテンシーを定義できる指標の提示を目指す。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>*現状の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独自の学習領域「国際教養」が開校当時から設定されており、課題発見-設定-研究というプロセスを学びながら探究的な学習を進めるスタイルを継続的に行っている。 ・プレゼンテーションやディスカッションといった発信・表現のスキルを使いながら教科学習を進める授業も多く、授業の多くにアクティブラーニングのスタイルが取り入れられている。 ・研究成果を外部に発信し、外部の活動に活かしている生徒もおり、外部からの評価も高い。一方また、社会課題や社会貢献への意識が高い生徒も多く、ボランティアツアーや途上国へのスタディツアーには生徒が自主的に参加している。 <p>*研究開発の仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究のテーマを概念化して提示することで、生徒の持つ多様な課題意識を焦点化し、現実的課題に結びつけ、机上の空論に終わらないアクションへと結びつける道筋ができる。 ・課題研究を通して、他者（学校内外の高校生・大学生・研究者・企業）と連携することで、課題解決に向かうための知識・能力・技術の組織化を図る方法、対話を通して解決の道筋を発見する方法を学び、多様な課題に柔軟に対応できる連合体を構成する能力を養える。また、第 6 学年次の研究を Pre-SGU と位置づけることで、大学での研究への連続・接続が可能である。 ・課題研究の過程および成果を世に問い、評価を受けることで、研究の質の向上・現実性の保持が期待される。またグローバル・コンピテンシーを評価するための指標の設定、方法の確立に寄与できる。 <p>(3) 成果の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページによる成果の公表と、課題研究に関連する情報その他の外国語による表示 							

	<ul style="list-style-type: none"> ・本校公開研究会での教員側・生徒側両者による公表 ・管理機関及び連携大学・企業との共同による成果発表会 ・生徒運営による国内外の参加者を招いてのシンポジウム・ワークショップの開催
<p>⑧ -2 課 題 研 究</p>	<p>(1) 課題研究内容</p> <p>地球規模の課題解決に付随するテーマとして「リスク」「葛藤と軋轢」「教育」を主軸とし、それぞれに関わる具体的課題を生徒自身が設定・研究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「リスク」を主軸とした研究は、「リスク社会」に組織で立ち向かえる能力を中心的に育成する。多様なリスクを分析し、それに対応するための複合的「知」のチームをどのように構成するか、またそのチームでどのようにリスクに対応するかを生徒自身が考える課題研究を想定している。「葛藤と軋轢」を主軸とした研究のキーワードは「フォビア（嫌悪）」である。「フォビア」はなぜ生まれるのか、それを超えて他者と対話し、共通の課題に向かうにはどうしたらよいのかということについて課題研究を通して分析・洞察し、合意形成と平和の実現を可能にする対話力に主眼をおいて育成する。「教育」を主軸とした研究は、生徒自身が教育を受けている立場で同世代・次世代の教育に関する課題を考える。身近なところにアプローチの入口があるため、スモールステップではあっても、研究の成果を実行すなわちアクションにつなげることを想定する。 <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期課程3年間を通じて総合的学習の時間（本校では「国際4～6」）を中心として課題研究を行う。4年次：「Personal Project」・5年次：「国際5-SGH 課題研究」・6年次：「国際6-SGH 課題研究」生徒は（SSH・SGH いずれかを選択した上で）個人あるいはチームでの課題研究テーマを三つの主軸のいずれかに関連するものとして設定する。いずれの研究においても最終成果は内部発表にとどまらず、外部評価を受けることを目標とする。研究成果の内、学校外活動については、学校外活動の単位認定制度を導入する（SGHAct の単位認定）。認定に際しては外部機関と連携する。 ・課題研究のための調査・研究の機会としての国内外のフィールドワーク・研修を実施する。 ・課題研究支援および課題研究成果発信の場として、また、外部講師を招いての研究支援の場として生徒をファシリテーターとしたグローバルカフェを開催する。 ・学校設定教科「国際」の6年次開設科目「国際A」「国際B」における講座「国際協力と社会貢献」「ファシリテーション実践」を開設し、課題研究を通して身に付けたスキルを発展させる。 ・大学との連携事業（東京外国語大学との連携）国際交流基金との連携、企業との連携を通して、課題研究の成果としての実践を行う。 ・検証・評価については、研究の質・成果の達成度・実践化の度合い、またそれらを通して見えるコンピテンシーの獲得・育成状況を観点化し、指標を設けて評価を行う。評価規準・方法は、校内外機関もその検討・策定に携わることとする。さらに課題研究助成獲得および外部評価の場として、選抜コンペティション<ISS チャレンジ>を実施する。 <p>(3) 必要となる教育課程の特例等</p> <p>特になし。</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「国際教養」を始めとした各授業での「ポスト・アクティブラーニング」の取組 ・英語および英語以外の外国語によるコミュニケーション能力の向上に関する取組 <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</p> <p>特になし。</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外ワークキャンプ実施（現地校でのプレゼンテーション・ディスカッション含む） ・大学・高校との交流事業の推進 ・後期課程生徒主体の運営組織 SGH Student Team の結成
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>本校は平成26年度より SSH 事業の指定を受けている。本校の国際教養は「理数探究」「人間理解」「国際理解」の三領域を中核としており、SSH 課題研究は「理数探究」を主軸として運営・実施される。一方 SGH は三つの領域を包括的にとらえ、課題研究は三つの概念によって再構成される。</p>

3.2 5カ年研究開発計画・評価計画（当初）

研究開発計画	評価計画
平成27年度（第1年次）	
①後期課程の「国際教養」領域（総合的学習の時間を含む）について、仮説Ⅰの課題達成に必要な事柄の見直しを行う。 重点項目 ②仮説Ⅰの課題研究を実施する。 重点項目 ③仮説Ⅱの実施に必要な外部連携のネットワークを構築し、連携事業を一部開始する。 重点項目 ④仮説Ⅲの実施の第1段階として、課題研究の成果についての評価を外部と連携して行う。 ⑤SGHActの単位認定制度のための検討を行う。	<内部評価> ・課題研究の体系に関する調査・データ収集と本校の課題との比較 ・生徒の課題研究テーマと主軸概念の関係についての校内アンケート調査 <外部評価> ・課題研究テーマについての外部連携機関の関心度調査 ・外部コンテストや研究発表会への参加
平成28年度（第2年次）	
①6年間の「国際教養」領域の体系整備の実施。具体的には、スキル育成の前期課程と、課題研究が継続的に高次化するよう後期課程の体系を検討・整備する。 重点項目 ②仮説Ⅰの課題研究を、外部連携を強化する形で実施する。 重点項目 ③外部と連携し、課題研究についての評価規準・評価方法について共同開発を行う 重点項目 ④ポスト・アクティブラーニングの教科学習における試行を行う。 ⑤SGHActの単位認定制度の運用方法と要領を定める。	<内部評価> ・校内研究会におけるカリキュラムの体系の整備状況についての検討・評価 <外部評価> ・運営指導委員会および評価規準・方法策定会議（仮）による、研究開発進捗状況の確認。 ・第5回公開研究会における研究開発についての中間発表
平成29年度（第3年次）	
①6年間の「国際教養」領域の体系を構築する。必要に応じて、教育課程上の名称変更等を行う。 ②仮説Ⅰの課題研究の成果を国内の学会等で発表する。 ③外部と連携し、課題研究についての評価規準・評価方法の検証を行う。またコンピテンシーについての評価規準・評価方法の共同開発を行う。 重点項目 ④SGHActの単位認定制度を施行する。 重点項目 ⑤研究助成のためのコンペティション実施（以後継続）。	<内部評価> ・校内研究会におけるカリキュラムの運用状況についての検討・評価 ・課題研究の評価についての校内アンケート実施 <外部評価> ・SGH 成果発表会開催
平成30年度（第4年次）	
①国際教養の体系化と課題研究の質的向上の関係性を構造化するための調査・検証を行う。 ②仮説Ⅰの課題研究の成果を国内・海外の学会等で発表する。 重点項目 ③外部と連携し、課題研究・コンピテンシーについての評価規準・評価方法の検証を行う。 ④ポスト・アクティブラーニングの継続的試行を通してコンピテンシー育成との関係性を検証する。 重点項目	<内部評価> ・前年度のSGH 成果発表会を受けての振り返り <外部評価> ・生徒の学会発表についての外部の反応の分析とフィードバック ・評価規準・方法の外部提供と検証
令和元（平成31）年度（最終年次）	
①国際教養の体系化完成。課題研究の質的向上とコンピテンシー育成との関係性を構造化する。 重点項目 ②課題研究の成果の実践への移行の検証を行う。 ③グローバル・コンピテンシーの評価規準・評価方法を策定し、公開研究会等で発表・外部提供を行う。 重点項目 ④Pre-SGU:課題研究について大学への継続がなされているかどうかの追跡調査を行う。	<外部評価> ・SGH 成果発表会開催 ・国際教養の体系化されたカリキュラムの公表 ・コンピテンシーの評価規準・方法の外部関係機関への提案と評価依頼 ・学会におけるワークショップ開催

3.3 研究開発組織の概要

研究母体… 本校全職員及び管理機関連携部署（東京学芸大学 SGH 推進委員会（SSH 合同）・東京学芸大学国際教育センター・留学生センター・附属学校部・附属学校課）

本事業は、本校職員全員が担当する。必要な情報については、教員会議および校内研究会がその共有機会として確保される。

実施組織… 研究開発実施計画…SGH 委員会・研究部・特別研究推進委員会

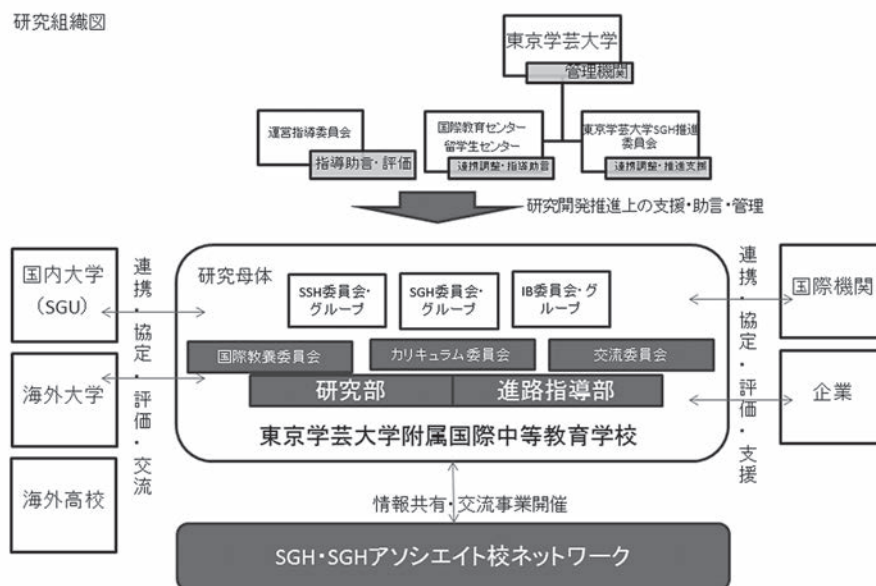
＊本事業の中核組織。年次計画と再検討・報告書作成を行う。

研究開発実施…SGH 実施グループを核とした本校教員全員

＊具体的な運営・実施にあたる。

カリキュラム検討…SGH 委員会・SSH 委員会・カリキュラム委員会・国際教養委員会

研究組織図



外部連携調整…SGH 委員会・SGH 海外交流アドバイザー・東京学芸大学 SGH・SSH 推進委員会・

国際教育センター・留学生センター・（事務手続き）国際課

高大連携調整…SGH 委員会・進路指導部・東京学芸大学国際教育センター・留学生センター

管理機関との連絡調整…校長・副校長

事務処理（経理処理を含む）…本校事務職員

管理機関…本学（国立大学法人東京学芸大学）

＊本事業における指導・支援を行う。また文部科学省との連絡を行う。

連携・協定・評価・交流・支援…本学・他大学・国際機関・企業・国内外高校等

＊以下連携・協力体制を構築している大学・組織・企業（指定初年次～現在）

・東京外国語大学・フィリピン教育大学・香港大学・香港中文大学・香港科学技術大学・深圳大学

・University College London・ミシガン州立大学・JICA 東京・日本マイクロソフト・チームラボ

オトナタチ合同会社・株式会社・日本政策金融公庫

運営指導委員会…石川 一喜（拓殖大学 准教授）・渋谷 真樹（奈良教育大学 教授）

半田 淳子（国際基督教大学 教授）・古屋 力（東洋学園大学教授）

森上 展安（森上教育研究所 代表取締役）・トロイ・ハモンド（中国 上海 インター校教諭）

3.4 令和元年度（指定5年次）の実施概要（成果と課題） 付：資料 令和元年度事業一覧

<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究の運営の基盤体系を完成させた。 ・課題研究論文の評価について標準化の取り組みを再度行い、5年生・6年生全員分の論文を同じルーブリックで数値評価した。またその経験を中間論文・最終論文に反映できるようにした。 ・外部機関による助言・指導の仕組みを今年度も継続した。それによって課題研究を充実・発展させる仕組みを見つけ出すことができた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究を支える仕組み（各教科の学習との連動を含む）を体系的・計画的に整える。 ・資質・能力の評価についてその評価方法・評価規準の策定を行い、外部へ発表・共有する。 ・5年間の取組を経て得た知見の公開。

3.4.1 5か年計画における直近3年間の実施状況

<★は2年次で実施できた項目・○は3年次で実施できた項目・◎は4年次で実施できた項目・◆は5年次で実施できた項目・△は着手しているが未完の項目>

平成29年度（第3年次）	
<p>①6年間の「国際教養」領域の体系を構築する。必要に応じて、教育課程上の名称変更等を行う。○</p> <p>②仮説Ⅰの課題研究の成果を国内の学会等で発表する。○</p> <p>③外部と連携し、課題研究についての評価規準・評価方法の検証を行う。またコンピテンシーについての評価規準・評価方法の共同開発を行う。重点項目★</p> <p>④SGHActの単位認定制度を施行する。重点項目△</p> <p>⑤研究助成のためのコンペティション実施（以後継続）○。</p>	<p><内部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究会におけるカリキュラムの運用状況についての検討・評価 ○ ・課題研究の評価についての標準化実施◎ <p><外部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・SGH 成果発表会開催★
平成30年度（第4年次）※一部改訂	
<p>①国際教養の体系化と課題研究の質的向上の関係性を構造化するための調査・検証を行う。◎</p> <p>②仮説Ⅰの課題研究の成果を国内・海外の学会等で発表する。重点項目◎</p> <p>③外部と連携し、課題研究・コンピテンシーについての評価規準・評価方法の検証を行う。△</p> <p>④ポスト・アクティブラーニング（主体的に教室の外と繋がる学び）の継続的試行を通してコンピテンシー育成との関係性を検証する。重点項目△</p>	<p><内部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度までのSGH 課題研究を受けての振り返り◎ <p><外部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学会発表等についての外部の反応の分析とフィードバック△ ・評価規準・方法の外部提供と検証△
平成31年度（最終年次）※一部改訂	
<p>①国際教養の体系化完成。課題研究の質的向上とコンピテンシー育成との関係性を構造化する。重点項目◆</p> <p>②課題研究の成果を踏まえ、研究成果が実践へどのように移行されるかの検証を行う。◆</p> <p>③グローバル・コンピテンシーの評価規準・評価方法を策定し、公開研究会等で発表・外部提供を行う。重点項目△</p> <p>④Pre-SGU：課題研究について大学への継続がなされているかどうかの追跡調査を行う。△</p>	<p><外部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年間の研究開発の経過と実績を報告するSGH 成果発表会開催◆ ・国際教養の体系化されたカリキュラムの公表△（本冊子内にて一部公開） ・コンピテンシーの評価規準・方法の外部関係機関への提案と評価依頼 ・学会におけるワークショップ開催

令和1(平成31)年(2019年)度 SGH事業一覧 2020年2月現在

2019年度実施期間	校内研究事業・運営指導委員会	対応仮説他
4月5日	4月校内研究会① SGH・SSH今年度の事業計画	I・III
4月22日	4月校内研究会② 学びの地図作成について(兼公開研究会準備)	I・III
6月13日	6月校内研究会 公開研究会事前打ち合わせ(SGH情報交換会準備含む)	III
10月1日	国際教養委員会主催 課題研究論文評価標準化検討会(モデレーション)	I・III
11月22日	2019年度授業研究会・SGH情報交換会 兼 第1回 運営指導委員会	I・II・III
2月22日	ISSチャレンジ最終審査会・SGH最終年次事業報告会 兼 第2回 運営指導委員会	I・II・III
3月(予定)	教員会議 新5年・6年向け 次年度課題研究予定報告	I・III
2019年度実施期間	課題研究・ISSチャレンジ関係事業内容	対応仮説他
2019年年度初～	課題研究実施	
4月10日	ISSチャレンジオリエンテーション2年生～6年生対象 於 第1体育館 ※SSHオリエンテーションも同時開催 ※以下各学年オリエンテーション等実施日	
4月17日	5年(国際5)・6年(国際6) 課題研究I・IIオリエンテーション	
4月24日	4年(Personal Project) スーパーバイザーミーティング 5年(国際5)・6年(国際6) 課題研究 生徒・教員マッチング	
4月25日	ISSチャレンジ研究代表者ミーティング①研究計画書オリエンテーション	I
5月21日	ISSチャレンジ研究代表者ミーティング②(メンター、研究倫理申請について・年間計画について・SGHフィールドノートの配布 外部評価会)	
5月22日	ISSチャレンジ研究計画書締切	
6月15日	ISSチャレンジ外部評価会①	
6月24日	ISSチャレンジ研究計画書査読締切<教員>	
6月27日	ISSチャレンジ研究代表者ミーティング③(「研究計画書」の評価・コメントのフィードバック・学問的誠実性に関する注意・学校説明会 ブース発表者募集・中間報告会)	
7月22日	ISSチャレンジ研究代表者ミーティング④(Scfのポスター展示について・海外研修の選抜について)	I
9月2日	ISSチャレンジ研究代表者ミーティング⑤(研究倫理について・Scfのポスター展示について・他校交流 大阪清教学園高等学校)	I
9月21日・9月22日	本校スクールフェスティバルにてポスター展示・ワークショップ開催(It is IT)	I・III
10月2日	ISSチャレンジ研究代表者ミーティング⑥(研究経過報告書・他校交流 大阪清教学園高等学校 WWL・SGH探究甲子園・学校説明会・第5回グローバルカフェ)	I
10月19日	ISSチャレンジ外部評価会②	I・II・III
10月30日	ISSチャレンジ研究経過報告書締切・課題研究研究経過報告書締切・6年課題研究論文締切 ISSチャレンジ追加申請締切	I
11月26日	ISSチャレンジ研究経過報告書査読締切<教員>	I・III
11月28日	ISSチャレンジ研究代表者ミーティング⑦(経過報告書のフィードバック・論文の書き方について)	
12月16日	ISSチャレンジ研究代表者ミーティング⑧	I
1月8日	ISSチャレンジ研究代表者ミーティング⑨(研究ポスターの作成について・自己評価シート・フィールドノートの提出について・学芸大発表募集)	
1月14日	ISSチャレンジ最終研究論文提出締切	
1月24日	研究成果ポスター 提出締切(全グループ)	I・III
2月5日	ISSチャレンジ最終研究論文査読締切<教員>	I・III
2月5日～7日	ファイナリスト・セミファイナリスト選考<教員>	
2月7日	ファイナリスト・セミファイナリスト発表 ファイナリスト:4グループ セミファイナリスト:14グループ	
2月7日	ISSチャレンジ研究代表者ミーティング⑩(ISSチャレンジエントリー者アンケート配布)	
2月21日	生徒研究成果発表会 前日準備・リハーサル 研究代表者ミーティング	I
2月22日	ISSチャレンジ課題研究成果発表会 兼 最終審査会 SGH部門ポスターセッション SGH最終年次事業報告会	

2019年度実施期間	国内研修・国内交流・研究発表・ディスカッション等	対応仮説他
6月22日	長野県上田高等学校主催「北陸新幹線サミット」(於 長野県上田高等学校)	I・II
8月19日～21日	Global Discussion参加(於 名古屋大学教育学部附属高等学校)	I・II
9月9日～9月11日	世界津波の日 高校生サミット in 北海道	I・II
9月12日	長野県上田高等学校 交流	I・II
10月9日	大阪清教学園高等学校 交流	I・II
12月15日	第3回関東・甲信越静地区スーパーグローバルハイスクール課題研究発表会(於 立教大学)	I・II・III
12月22日	全国SGH高校生フォーラム(於 東京国際フォーラム)	I・II・III
12月26～27日	エンカル甲子園@徳島	I・II
1月27～28日	岡山操山高等学校主催平成30年度未来航路課題研究発表会(於 岡山操山高等学校・岡山市市民会館)	I・II・III
2月1日	第3回東京学芸大学主催SSH/SGH課題研究成果発表会(於 東京学芸大学)	I・II・III
3月20日～22日	SGH甲子園・関西研修 コロナウィルスの感染症拡大につき中止	I・II・III
2019年度実施期間	海外研修・海外交流(事前学習含む)	対応仮説他
7月19日～7月29日	UCL-Japan Youth Challenge 2019 *事前学習 5月～7月 4回	I・II
7月25日～8月10日	香港研修2019・フィリピン研修2019参加生徒募集	I・II
8月26日～9月12日	香港研修2019・フィリピン研修2019参加生徒選抜審査	
9月14日	香港研修2019参加者決定	
9月14日	フィリピン研修2019参加者決定	I・II
1月19日～23日	フィリピン研修2019実施 *事前学習 9月17日～2020年1月15日まで22回	I・II
2月5日～8日	深圳研修2019 コロナウィルスの感染症拡大につき中止 *事前学習 2019年9月26日～2020年1月20日まで8回	I・II
2019年度実施期間	Global Café	対応仮説他
5月14日	第1回 2018年度フィリピン研修報告会(生徒主催型)	I
6月14日	第2回 2018年度香港・深圳研修報告会(生徒主催型)	I
6月19日	第3回 慶応義塾大学 駒村圭吾先生講義(学校主催型・SGH委員会交流委員会共催)	I・II
7月12日	第4回 ガチリン：原子力発電について(福島県立福島高等学校・本校有志ガチリンメンバー)	I・II
10月2日	第5回 留学・研修参加者体験講話	I・II
10月18日	第6回 インクルーシブ教育ワークショップ(生徒主催型)	I
11月21日	第7回 ニコテ深圳コミュニティCo-founder高須 正和様講義	I
2月10日	第8回 2019年度フィリピン研修報告会	I
2019年度実施期間	課題研究支援セミナー	対応仮説他
5月22日	筑波大学蹴球部パフォーマンス局データ班所属 スコットアトムさん(本校4回生) 「データ分析とスポーツ」スポーツアナリティクスの観点からデータの分析方法と活用方法を学ぶ	I・II
5月29日	筑波大学蹴球部パフォーマンス局データ班所属 スコットアトムさん(本校4回生) 「AIとスポーツ」人口知能(AI)の可能性をスポーツという観点から考える	I・II
6月19日	立教大学社会学部 長 有紀枝先生 AAR難民を助ける会理事長 「日本は難民に冷たい国か?」「紛争は誰がどこでおこすのか?」難民、国内避難民問題の捉え方	I・II
11月27日	立教大学法学部政治学科 倉田 徹先生 「香港の若者はなぜ立ち上がるか?雨傘運動と逃亡犯条例改正反対デモ」	I・II

3.5 管理機関の役割と連携

東京学芸大学の役割と連携

管理機関である東京学芸大学は申請時から事業進捗に関する助言や経費支援などを行っている。今年度も課題研究の外部評価会に大学教員を派遣し、2020年2月には大学の主催で合同研究成果発表会を行い、他校を含めた高校生の発表に対して、大学教員が評価・講評・助言を行った。

1. SGH 推進委員会の設置と支援

本校および附属高等学校のSGH事業を支援するために東京学芸大学内に設置された学長をトップとする機関である。3年前から年に2回程度開催されており、今年度の主な内容は以下の通りである。

第1回：今年度全体計画の確認・大学としての支援体制の確認・年度末の課題研究成果発表会についての打ち合わせ

第2回：今年度の報告

合同成果発表会の開催についての具体的打ち合わせ（主催東京学芸大学）

2. 外部評価会への教員派遣

東京学芸大学の教員派遣制度を活用して今年度はISSチャレンジ「外部評価会」の評価者として学長をはじめとした大学教員が支援にあたった。

- ・2019年6月・10月 ISSチャレンジ外部評価会（校内開催）
- ・2020年2月 東京学芸大学主催 SSH/SGH 課題研究成果発表会 審査員（7名の教授陣）
総務部附属学校課の運営
学長・副学長・附属学校運営参事の出席

3. 東京学芸大学主催 SSH/SGH 課題研究成果発表会

実施日時：2020年（令和元年）2月1日（土） 10:00～16:00

実施場所：東京学芸大学 講義棟C棟・N棟

主催：国立大学法人 東京学芸大学

実施組織 … 本校全職員及び管理機関連携部署（東京学芸大学 SGH 推進委員会・東京学芸大学国際教育センター・留学生センター）

本事業は、本校職員全員が担当する。必要な情報については、教員会議および校内研究会がその共有機会として確保される。

- ・研究開発実施計画…SGH委員会・SSH委員会・特別研究推進委員会
*本事業の中核組織。
- ・当日までの実質運営…SGH実施グループを核とした本校教員全員
*具体的な運営・実施にあたる。

4. その他の支援

管理機関として文部科学省との連絡・問い合わせ等窓口

5. 経費支援状況（主なもの）（今年度）

- ・国内外の教員引率経費の一部・都内引率経費を管理機関が支援。
- ・一部経費の消費税相当額を管理機関が支援。
- ・海外交流アドバイザー雇用経費の一部を管理機関が支援。